

## 平成25年度第7回教育研究評議会議事要旨

日時 平成25年11月15日（金）15時30分～17時01分  
場所 大学本部2階大会議室  
出席者 佛淵学長，瀨口理事，中島理事，岩本理事，宮崎理事，福本文化教育学部長，平地経済学部長，藤本医学部長，石橋工学系研究科長，渡邊農学部長，諸泉全学教育機構副機構長，遠藤教養教育運営機構長，後藤医学部附属病院副病院長，吉田総合分析実験センター長，甲斐評議員，畑山評議員，大田評議員，萩原評議員，大島評議員  
欠席者 稲岡附属図書館長  
陪席者 川上監事，増子評価室長，只木総合情報基盤センター長，滝澤全学教育機構副機構長

### ○ 前回議事要旨について

学長から，平成25年度第6回教育研究評議会議事要旨（案）を評議員に送付，確認したところ，意見のあった箇所については，修正して確定し，ホームページに掲載している旨，報告があった。

### ○ 審議事項

#### 1. 佐賀大学情報戦略基本方針（案）の策定について

中島理事から，本学の情報戦略基本方針（案）について，教育・研究・診療の機能を強化すること，また，本学構成員に共通認識を図ることを目的として策定する旨の発言があり，審議の結果了承された。

#### 2. 寄附講座の設置期間更新について

中島理事から，現在設置している寄附講座「人工関節学講座」について，平成26年1月1日から平成27年12月31日まで更新する旨の発言があり，審議の結果了承された。

#### 3. その他

特になし

### ○ 報告事項

#### 1. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

岩本理事から，本件に関して，佐賀大学は4項目についてすべて「順調に進んでいる」との評価を受けたとの説明があった。続いて，増子評価室長から評価結果及び今後の対応策についての詳細説明があった。

#### 2. ミッションの再定義（教員養成・医学・工学分野）について

学長から，教員養成，医学及び工学分野についての概要等について説明があった。

### 3. 会計検査院の实地検査について

財務課長から、会計検査院の实地検査の日時等について報告があり、本学の受検は3年ぶりであること、大型機器の稼働状況についても検査があるとの説明があった。

### 4. 教育の質保証に関する今後の進め方について

瀬口理事及び滝澤全学教育機構副機構長から、学長から通知のあった「教育の質保証に関する今後の進め方について」に基づき、教育室において、組織的な教育改善を全学的に進めるための組織等について検討を行ったことの報告があった。

### 5. 平成25年度「優秀科学技術研究賞」並びに「優秀芸術文化賞、社会文化賞及び学術賞」の選定について

中島理事から、本件について、総合研究戦略会議において、「優秀科学技術研究賞」に北垣農学部准教授を、「優秀芸術文化賞、社会文化賞及び学術賞」に井川文化教育学部准教授を選定した旨の報告があった。

### 6. 全学委員会等の審議状況報告について

特になし。

### 7. その他

#### ・佐賀県と佐賀大学との連携に関する基本合意書（案）について

学長から、本件について、有田焼創業400年を契機として、佐賀県と本学が、佐賀県立有田窯業大学の4年制化等を含む機能強化について、その具体的な検討・準備に着手するという基本的合意書であり、本日、合意書の締結を行った旨の報告があった。

また、本学としては、これから学内の関係学部等と様々な面について、検討をしていきたいとの発言があった。

### ○ 意見交換

#### ・佐賀大学改革プランの骨子（素案）について

学長から、今回の意見交換では、一佐賀大学改革プランの骨子（素案）について一をテーマとし、意見をいただきたい旨の発言があった。

次いで岩本理事から、事前に配布した「佐賀大学改革プラン骨子(素案) Ver. 1.1」について説明があった。

岩本理事から、平成24年6月の大学改革実行プランを受けて、本学独自の佐賀大学改革プランの策定に向けて、主に入試改革、教育の質保証、就職支援改革及び大学のガバナンスとマネジメントについて検討を行ってきたこと、また、作成した骨子（素案）について、拡大役員懇談会にてディスカッションを行い、意見を伺ってきたとの発言があった。

引き続き、岩本理事から、事前に配布しておいた資料（骨子（案））に基づき、意見を伺いたい旨の発言があり、まず、企画評価課長から、資料の見方等について説明があった。

大島評議員から、入試改革については、よりよい学生に本学を希望してもらえよう検討をしてはどうか、入試の負担の見直しをしてはどうか、また、ガバナンスの強化については、学長の考えがもっと浸透するような連携体制を整備したらどうかとの発言があった。

岩本理事から、入試改革については、優秀な学生に入学してもらうために、選抜機能を強化していくとの発言があった。

諸泉全学教育機構副機構長から、インターフェース科目におけるアクティブラーニングと座学との役割や人的資源の問題及び評価基準の設定についてどのようにしていくか、また、地域との連携における歴史文化分野を教育にどのように活用していくのかとの意見があった。

渡邊農学部長から、卒業研究及び大学入門科目の中に、アクティブラーニング（学生が課題を見つけ、目標を設定して、解決していく）を取り入れているとの発言があった。

遠藤教養教育運営機構長から、学生は、初年次からアクティブラーニングを行い、モチベーションを保つことが重要であること、また、インターフェース科目についてアクティブラーニングを行うには、マンパワーが必要であるとの意見があった。

引き続き研究の分野について、以下のような意見交換があった。

渡邊農学部長から、社会で活躍できる学生に育てるためには、産学官連携による教育が必要なので、骨子に追記して頂きたいこと、渡邊農学部長から、大学は、地域のニーズを把握し、社会を牽引する役割を担う必要があること、福本文化教育学部長から、講座を越えた大学としての研究を行うことも必要であるとの意見があった。

さらに、大学のガバナンス等について、渡邊農学部長から、学長と各学部長が連携を密にすることが必要であること、また、学部長については、学部の中で決定し、推薦された方を学長が決定する現在の仕組みでよいのではないかと発言があった。

学長から、アクティブラーニングについては、初年次教育から行っていく必要があること、また、研究については、ニーズに沿った研究が主流になってくるのではないかと発言があった。

最後に、学長から、ガバナンスの前にコンプライアンスが必要であること、また、この素案は、第3期中期目標・中期計画の骨子となるので関係各位にはよろしく協力していただきたい発言と、岩本理事から、今後ご意見等については、連絡頂きたい旨の発言があった。

なお、次回の意見交換は、「佐賀大学における研究推進について（仮題）」として行うことが確認された。

以上